

# 星屑

'00 Nov.  
No.308



熊本県民天文台

開こう！ 21世紀への扉！ 残そう！ 星空の見える街！

# 動き始めた「星空の見える街」づくり

艶島 敬昭

## 発 端

話は、昨年末にさかのぼります。我が家に電話がかかってきました。「城南町の将来を考え、町に提言をするために《まちづくり懇話会（仮称）》を作つてもらいたくて参加者を募集しているので、ぜひ！」と言う内容でした。自発的な任意団体で、町の下請けではないと言うことだったので、断るのも・・・と考え参加しました。

この会は、6月までかなりの回数の討議を重ね、城南町の新10カ年計画策定に向けて、町民として町に希望することを提言としてまとめました。

## 星空を消さないで

私は、県民天文台の活動が町のシンボルの一つになっている現状と、しかし、開所以来の十八年間で随分と星が見えにくくなり、特にここ数年、大型商業施設の進出によって城南町の夜空が明るくなっていることに危機感を抱いていましたので、懇話会に参加された大勢の方に「星空の危機」を訴えました。

それは、城南町の自然環境が壊れ始めていることの一つの指標だと問題を提起したわけです。「星空と水と緑と文化の町」として人々が暮らしてきた豊かな環境が城南町には残されており、それが「住み良さ」として感じられてきたのです。バブルがはじけた後の深刻な危機の中で、むやみな開発を求めるより、豊かな自然環境を保全するこ

との中に活路を見いだしてはどうかと提案したわけです。分科会や全体会での討議を経て、全員の賛同が得られ、こうして「星空の見える街」と言うテーマが提言の中に盛り込まれました。

## 熊日のコラム 「意見・異見」

次の転機は6月末。熊日新聞社からの電話でした。「読者のページに《意見・異見》と言うコラムがあるんですが、何でも好きなことを書いて良いので、執筆してみませんか？ ただし、隨想ではなく、行政や社会への提言として」と言うお話。執筆者を捜していたところ、天文台会員の某氏の推薦があったのだとか。

これも何かの縁だろうと引き受けてしまい、それから悩む羽目に・・・・。

最初の回は、「今の学校教育は子供たちの科学的好奇心を育てるという点において失敗している」と書きました。2回目からは、「光害（ひかりがい）」について書いてきました。サーチライトの件では、「設置店に頻繁に税務調査に行きなさい。そしたらサーチライトは減るはず」と書いた原稿を送ったら、「脱税だと独善的な断定は良くない」と修正を迫られてしまいました。

やはり、「星空を守る」などという趣味的な要求は社会に受け入れられないのだろうかと不安がよぎりましたが、気を取り直して少し軟らかい表現に改め、ようやくその回の原稿はOKをいただき、掲載までこぎ着けたのでした。

## 宇土ロータリークラブからの支援

ところが、県民天文台のスタート時にも絶大な力で後押しをしてくださった「マスコミ」の力は強力です。早速反応が現れました。環境に配慮し、上方光束を押さえた照明器具を導入して、モデル照明地区を作れば、一目瞭然。地域や世間の「星空の見える街づくり」への理解は一気に進むはず、という意見に賛同者が現れました。宇土ロータリークラブさんです。

これには大変勇気づけられ、早速活動の原案を考え、提出しました。しばらく協議していただき、つい先日（10月11日、水曜日）会合にお招きいただいたので、例によって特製の電子紙芝居を作って上演し、星空を守ることは残された自然を守ることであり、屋外照明の強い光で螢が激減した例も報告されていて、星空は残された自然をはかるバロメーターだと説明し、助成をお願いしました。

その帰り道、助成プロジェクトの担当責任者の方から、県民天文台を中心とした「星空の見える街づくり」に、活動資金を今後5年間にわたって助成することは内定済みで、後は助成金額を決定する必要があること、そのため、基本計画に沿って活動（事業）計画を具体化して欲しいと要請がありました。こんなに嬉しいことはありません。みなさんと相談して、早急に計画を具体化したいと思います。

## NHKからの電話

宇土ロータリークラブや「ふるさとネット」との折衝が続いている頃、NHKの火の国ワイドを担当している伊藤アナウンサーか

らお電話をいただきました。「新聞記事を見て興味を持ちました。《火の国トウデイ》というコーナーで、県政などへの提言を紹介しているのですがどうでしょう？」というお誘い。奇しくも10月11日が放送予定のこと、ロータリークラブさんの件と合わせて、背水の陣で準備しました。

放送をご覧になった会員さんもいらっしゃるかも知れませんね。

## 時代は「環境」に向かっている

「星空を守る」という表現ではなく、具体的な照明器具の改善という手法を通して、「星空の見える生活環境を保全しよう」という提案の仕方にまとめて頂いたのが良かったようで、番組後数名の方からお電話を頂きました。ああむね好評だったようです。宇土ロータリークラブの方々にも「支援のし甲斐がある」と好評でした。

突然降ってわいたような話ですが、やはり社会全体が環境問題の重要さに気付き、「ここらで何とかしなくては!」とか「行政に頼るだけでなく、自分たちにできることは何か?」と模索し始めているのではないでしょうか?

## 「星空の保全」を楽しむには

そこで、私たち熊本県民天文台が今取り組むべき事はなんだろうと考えてみました。10年前ならとてもこんな事はできなかっただろう。でも、今だったら受け入れてくれる市民の方は多いかも知れません。誰もが手軽に取り組めて、星空も楽しめるし、ちょっと科学的だつたりして役に立つ、そんな観察手法を開発できないでしょうか?

私たちだけがシャカリキに走り回るのでは

なく、大勢の人たちを巻き込みながら、着実に成果を残していく、そんな手法こそ求められていると思います。

### 屋外照明の調査活動

1つは、地域の夜間照明器具の現状についてみんなで調査に回る活動を組織することです。街なかだろうと郊外だろうと、はたまた田舎だろうと、どこでも結構。これはよい照明だとおすすめできる場所、逆にこんなぎらぎら照明なんてナンセンスという場所などを、どんどん報告してもらい、ホームページで公表したらどうでしょうか？みんなで集まって評議会議なんてのも面白そうです。

ついでに、「改善してください」と申し入れるのも良いかも知れません。大勢でやれば効果は大きいでしょう。お薦めの場所は大いに宣伝し、見学会を開催して、こんな照明が良いんだ！と見本を示すことが大切です。「見ることは信じること」と言いますから、容易に主旨を理解してもらえるでしょう。

### モデル照明地区を作る

1本でも良いから、「上方光束ゼロ」の環境に配慮した照明器具を取り付けてもらう活動は、助成金を使えばできると考えています。ギラギラと四方八方に光を散らしている街灯の中に、1本でも理想的な照明器具が導入されると、その比較は明瞭です。

落ち着いた光は町の雰囲気をも変えてくれるでしょう。こんな照明器具が5年間の間に、点から線になり、面にまで広がると、県民天文台から見上げる星空は、きっと昔の輝きを取り戻してくれることでしょう。

岡山県美星町のように、山間部の町村での取り組みではなく、都市近郊に位置する城南町や宇城地区での取り組みの意義は大変大きいと考えます。

### もっと楽しく

どのように照明をデザインすべきかなんて、勉強会も楽しいかも知れません。講師を搜してお招きすることも可能です。

または、今はやりのデジカメやビデオカメラ、普通の使い捨てカメラなどを使って、自分の住んでいる場所の夜空の明るさ調べとかを行うのも良いかも知れません。

天体写真に一度は凝ったことのある方なら、同じ日・同じ時刻に別々の場所から、たとえばスバルを撮影してみるというのはどうでしょう。清和高原から撮った写真と、熊本市内から撮った写真とでは、違いを容易に理解できるはずです。複数の地点から一斉に撮影してデータを集めると、具体的に比較できて良いですね。（これって環境庁のスターウォッチングそのもののような気がするけど・・・）

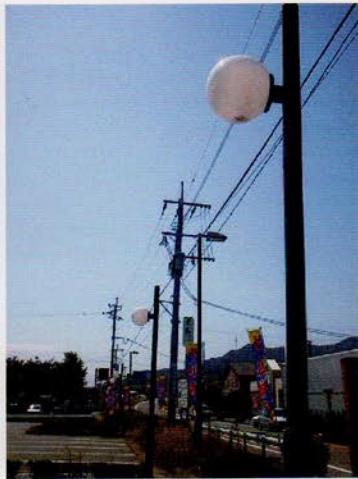
### 体験で分かる光害問題

とにかく、普通の人が大勢参加できそうで、おもしろくて、比較データができる、そんな手法を考えてください。

イメージとしては、バードウォッチングやいるかウォッチングなど、これらと同じ感覚で、気軽に参加できそうならベストです。アイデアをお寄せ下さい。

以前やった、「実験で分かる彗星の謎」みたいに、楽しく取り組めるものを工夫・開発して、一人でも多くの人に参加してもらいたいものです。

# 城南町の夜間照明について調べてみました



突然話が大きく進み始めたので、私は、あわてて城南町の夜間照明の実状について調査に出かけました。

## 火の君文化センター

上の写真をご覧下さい。左端は、火の君文化センター駐車場に設置されている照明器具です。なんと！ 上方光束ゼロ%、光害対策型の照明器具で統一されているではありませんか！ もう4年間も各種講師やボランティアとして通い続けた私さえ全く気付いていませんでした。「灯台もと暗し」です。

そういえば、改めてあたりを見渡すと、この建物全体が環境に配慮した照明で統一的にデザインされているではありませんか。これを題材に啓発活動を行うことが重要だとそのとき感じました。

## オサダ・ダイノブ前の国道沿い

あわてて、（自信を持って）オサダ・ダイノブ前の国道沿いへ。ここは、光があふ

れているはずです。ところが見上げてびっくり！ 国道沿いの街路灯だけは、全て上方光束ゼロの光害対策型なんです。（上の真中の写真をご覧下さい）

いったい誰が！ と嬉しい悲鳴！？

なんと、城南町では、拠点となるべきモデル照明が（点ではあるけれども）すでに導入されているではありませんか！ ただ、「誰もそれを自覚していない」状態なのです。

これなら話は簡単です。周辺に設置されている、開放型の照明器具（上の写真・右）を、何とか取り替えていただくような活動を展開できれば、環境（星空）に配慮したモデル照明地区を作り出すことができそうではありませんか。

ここまで説明で、これまでの経過と、今何が始まろうとしているか、の概要を、皆さんもご理解いただけたことと思います。すでに10月、21世紀もすぐ目の前に迫ってきました。来世紀に美しい星空を残し、県民天文台の活動を伝えていくためにも、皆さんのご協力をお願いします。

# 「白川わくわくランド」で星を見る会

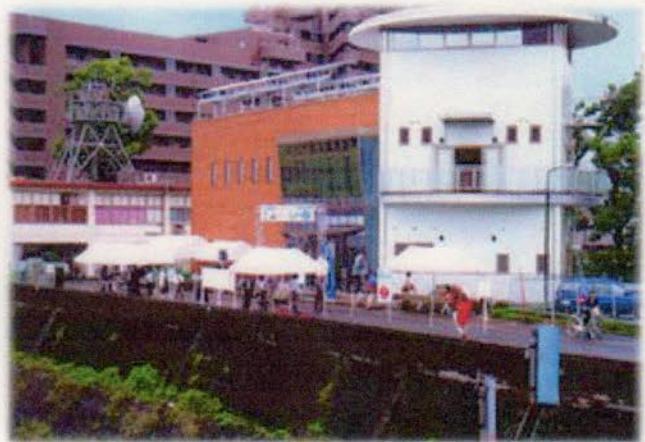
H I G E (中島 尚)

「白川わくわくランド」、みなさんにはご存じでしたか？今年の夏休みも終わりに近づいた8月24日（金）の夜、熊本市東子飼町8-55にある「白川わくわくランド」で、熊本市立碁台小学校の家庭教育学級の行事として、星を見る会が行われました。最初の計画では、熊本北警察署横の白川公園にある中央公民館を使う予定でしたが、碁台小学校に近いこともあってここに変更になりました。

さて、この「白川わくわくランド」ですが、これは建設省熊本工事事務所が建設したものです。まだ完成したばかりで非常にきれいですが、隣の建設事務所は汚いです。この施設は「白川流域住民交流センター」というのが正式名称で、展示室や流水模型、2階には多目的室や談話室があります。また、屋上にはわくわく広場という白川の景観を眺めるところがあります。

今回、使用したのは2階の多目的室です。実際にここに来てみてびっくりしました。天井には3台のビデオプロジェクターがぶら下がり、正面には3面のスクリーンが降ります。コンソールにはビデオやレーザーディスク、音響関係ときちんと整っていますし、パソコンの入力端子ももちろんありました。こんなすごい施設が「ただ」です。利用者が少ないということで、もっと使って欲しいのでPRをよろしくということで、今回の記事になりました。

実際の星を見る会ですが、参加者は保護者も入れて30名ぐらいです。小学校低学年



が中心で、高学年の男子が2名板だけでした。最初に、今日の星空ということでいろいろな説明をパソコンを使ってしたあと、星座物語を一つやって星を見ることにしていたのですが、残念ながら雲ってしまってほとんど星が見えませんでした。しかし、こと座のベガとわし座のアルタイルが見えたので、この2つを望遠鏡でのぞいてもらいました。ちょっとそこら辺は残念でしたが、全然見えないよりはましかもしれません。



この場所は熊本大学にも近く、空が明るいのではと心配しましたが、意外と星が見えることに感心しました。しかし、この日一番きれいだったのは南に光る稻妻でした。すこし、とほほな星を見る会でしたが、夏休みの締めくくりということで楽しくもありました。その後、お手伝いをしてくれた中尾のびた君（通称）と、熊本市内のワインの店で遅い夕食兼打ち上げをしました。フルコースとワインで満ち足りた一日の終わりでした。

ということで、是非みなさんも「白川わくわくランド」をご利用下さい。いいところですし、職員の方も親切です。



# 9月の県民天文台 ~運営日誌より~

開台率 9日/30日=30.0% 一般来台者数名229名 会員来台34名

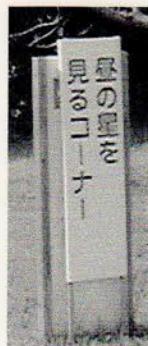
日付	天気	来客数	担当運営	記事
1日(金)	くもり	0名	西嶋	くもの中にちらちらとお星さま。ほそい三日月がきれいだったが、だれもこない。さびしい。(西嶋)
2日(土)	はれ／くもり	7名	中島、艶島、小林J、中尾の学生	アークトゥルス、月、アンタレス、アルタイル、M24、M20、アルビレオ(中尾の)
9日(土)	くもり／編め	なし	中島、中尾、松野	TALKABOUT 艶島、小林J、西嶋、立川、小林M、松野、高田、中島
10日(日)	くもり	2名	中島、かい	月、M13、M31 M57を入れきれなかった。ショック!(かい)
12日(火)	曇		中島、西嶋、艶島、富永	中秋の名月。夕方から雲が広がってきたが、月が見えるのでやってきました。雲の切れ間の月をデジカメで撮影していたら、雨がポツポツ落ちてきた、屋根を閉め、それから宴会! おダンゴもおしあつたそうです。西嶋さんおダンゴありがとう!富永さんビルありがとう!(艶島)
16日(土)	はれ／あめ	3名	中島、艶島、小林J、中尾の	お客様が来られて開けたとたん雨が…というわけで本日の営業終了!(中尾の)
17日(日)	はれ	8名	艶島、高田、かい	透明度バツチリ!アークトゥルス、M13、M22、M8、M31、アンタレス、天王星、海王星(かい) トトロの香炉をもってきました(高田)
23日(土)	はれ	203名以上	中島、艶島、松野、中尾の、高田	火の君まつり 金星 なかなかはでな…!金星が見てみんな大喜び(中島)
24日(日)	はれ	6名	艶島	M22、ベガ、ダブルダブルスター 星までの距離について説明  天文台メンテナンスの日 ①屋上防水 ②観測室の台、キャスターの改良 ③小惑星KUMAMOTOのプレート取り付け ④屋上ドア補修(艶島、中島)

今年で10回目をむかえた城南町火の君まつりは、前夜の雨から一転、暑いくらいの晴天に恵まれ9月23日秋分の日に、いつものように塙原公園を会場に、いつものような出し物で盛大に行われました。

県民天文台も毎年日中の一般公開をしていましたが、なんと今年から正式参加。入り口にも立派な看板をつくってもらいました。

「正式参加になったからには、朝10時からはじめに開けなければいけないな~」とは、トークアバウトの時の台長の弁。すでに「昼の星（金星）を見れる」と広告がうたれているのに「太陽にちかいところで、本当に金星を入れきれるかなー」と心配な模様。これもトークアバウトの時。

ところが、当日昼過ぎに、高田が遅れて天文台に行くと、「最初、月にあわせてから簡単にはいったよ」とのこと。すでに、艶島台長、中島先生、それと夜勤あけの松野さんが、上の望遠鏡で金星をみせていました



←入り口看板



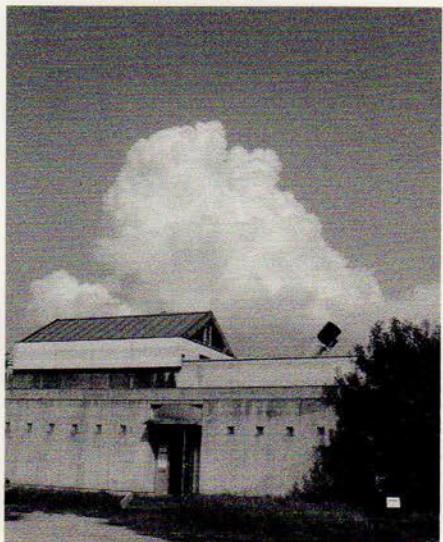
↑町内外から、沢山的人が訪れた。  
子供たちだけのグループで来て、後から、家族を引き連れてくるパターンが多かった。

あまりに暑さに、入道雲がモクモク↓



←これまた恒例の「戦隊」  
ものの記念撮影会。今年  
は、タイムレンジャー

こちらは、メイン会場  
ステージ。RKKテレビ  
の取材がきていた。  
↓



## ―― B 5 のたわごと ――

毎年のごとく、いきなり涼しく（寒く）なるこの時期。そして、毎年同じ事を思う。もうちょっと、中間気候が続かないかなー。西の空には夏の星座が、しばらくたつと、東の空には土星と木星。星空はにぎやかになってるのですけどね。なんでも望むのは、贅沢かなー。ししの流れ星も沢山降れば、バッタリなんですけど。

### ☆ 11月の天文現象＆行事☆

- 3日（金） おうし座流星南群が極大
- 4日（土） 上弦（16：27）
- 7日（火） 立冬（りっとう・・・冬の始まりで、これより次第に冷氣深くなる）
- 11日（土） トーカアバウト（天文台にて 20：00～）
- 12日（日） 満月（06：15） おうし座流星北群が極大  
夜半すぎ、月が土星、木星に接近
- 14日（火） 天王星が東矩（5.8等 視直径03".5）
- 15日（水） 水星が西方最大離角（ $19^{\circ}20'.$ 4 -0.5等 視直径06".7）
- 17日（金） しし座流星群が極大・・・今年はどんな出現が？
- 19日（日） 下弦（00：24）
- 20日（月） 土星が衝（-0.4等 視直径20".3）
- 22日（水） 小雪（しょうせつ・・・寒気つのり、雨凍って雪となるという意味）  
明け方、月が火星に接近
- 26日（日） 新月（08：11）
- 28日（火） 木星が衝（-2.9等 視直径48".6）
- 29日（水） 夕方、月が金星に接近

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 2000年11月号 通巻308号

発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-4226

熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01980-0-24463

熊本県民天文台事務局 担当 中尾 富作

ホームページ [http://www.kmt-technopolis.or.jp/KUMA/KCAO\\_TST.HTML](http://www.kmt-technopolis.or.jp/KUMA/KCAO_TST.HTML)